

令和元年度 学校経営計画 東京都立新宿山吹高等学校 昼夜間定時制

目指す学校	<p>単位制・無学年制の良さを生かし、「自己管理能力」を育み、大学進学を重視する昼夜間定時制高校を目指す。</p> <p>本校の使命は、生徒が自分で時間割を作成できる長所を生かし、自分の生活スタイルや学習ペースで学びたい生徒に学習環境を提供し、生徒を支援することにある。それを前提に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習指導・生徒支援を最大限に行い、単位の履修・修得率を高め、卒業し進路を実現させることをめざす。</li> <li>② 生徒の実態に応じ、基礎的基本的な知識・技能を定着させ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。</li> <li>③ 生徒理解に力を尽くし、個々の状況に応じて基本的な生活習慣を身に付けさせ、人間関係のキッカケづくりの一つとして地域や社会との関わりをとおし異年齢交流に取り組み、社会人としての常識がある温かく思いやりのある人材を育成する。</li> <li>④ 本校設置の背景と趣旨に鑑み、学校の課題を早期に発見し、解決策を見出し、着実に実践していく。</li> </ol>
-------	---

	目 標	方 策
中期的目標と方策	① 大学等への進学を叶える昼夜間定時制高校として、生徒の学習活動を支援する。	進学意欲のある生徒に対して、積極的な学習指導・進路指導ができるよう、各教科・担任・進路指導部が連携する。
	② 基礎的基本的な知識・技能の定着をもとに、進路実現のため学力を向上させる。	授業で教員・生徒間等のやりとりも行き、習熟度別や少人数授業も活用し、思考力・判断力・表現力・社会性を身に付けさせる。
	③ 進路ガイダンス機能の充実を図り、生徒一人一人に応じた進路選択ができるようにする。	ホーム部・担任と進路指導部の連携を密にし、ホームルームや面談等とおして担任等が指導を進め、生徒の自己実現を支援し、進路行事等を活用し進路を選択する力を育てる。
	④ スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)指定校として、全国に先駆けた取組を推進する。最終年度であり、翌年度以降にこれまでの成果を引き継げるようにする。	大学・IT企業・地域と連携し、情報科専門科目の授業内容・方法等を研究し実践する。全教科で32年度調査書改定も踏まえ、eポートフォリオ、ルーブリック評価を研究実践する。
	⑤ 校内外研修によって資質向上に努め、生徒による授業評価や学校評価をとおして、授業改善に取り組む。	本校独自の研修や校外での研修に参加し、教育専門職としての資質を高める。
	⑥ 学校保健計画・学校安全計画や普段の指導により、人権教育、心身の健康づくり、生命の尊さの指導をすすめ、安全・安心・事故防止等に努める。	健康講話・セフティー教室等の機会をとおして生命尊重、人権尊重を徹底するとともに、情報交換会、救護・対応方法の研修等をおして、安全・安心・事故防止等を行う。
	⑦ 行事や部活動への参加を促し、自主性や社会性を育て、自信をもって学校生活に臨めるようにする。	行事への参加、部活動加入を奨励し、学校への帰属意識が高まるよう指導する。
	⑧ 本校設置の趣旨に鑑み、本校で学ぶ意欲のある生徒を求めて生徒募集等の広報活動を進め、地域から信頼される学校であり続ける。	全教員で生徒募集等の広報活動を積極的に行う。また、地域の関係施設・団体等とも連携を図りながら、ボランティアや地域交流・地域連携をとおして異年齢交流を推進する。
	⑨ 本校設置の趣旨に鑑み、地域住民・都民に、生涯学習講座を提供する。	生涯学習講座は、地域のニーズを踏まえ、生徒の受講もすすめ、安全に配慮して、生涯学習振興室が中心となって運営する。

(注) [ ]内の数字は平成30年度の値。目標と実績が異なる場合に記載。

令和元年度の取組目標と方策			
柱	教育活動の目標と方策	重点目標と方策	数値目標等
学 習 指 導	授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特に不登校経験者の多い本校で、授業研究、校内研修を行い、授業でのやりとりやペアワーク等を行い、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、社会性を身に付けさせる授業を行なう。</li> <li>○ ICT機器の更新・増設を受け、各教科に配分して有効活用する。</li> <li>○ 教科準備室で研究を行い、授業改善を行う。</li> <li>○ 生徒に生涯学習講座の受講をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 教員相互の授業見学を全教員で年2回行い、見学報告書にまとめ共有する。</li> <li>★ 4～5月に全教員の授業をビデオ撮影し、各自で授業研究を行う。</li> <li>★ 本校で行う若手研、教師道場、開発委員等の研究授業を参観し授業改善に資する。</li> <li>★ 先進的な授業、要配慮生徒に配慮した授業に取り組み、学校経営支援センター相互授業見学データベースも活用し授業公開する。</li> </ul>
	履修率向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の個々の状況に応じて、単位の履修・修得等の支援を行う。</li> <li>○ 日常的な二者・三者面談や定期考査後の面談をとおし、学習・生活状況を生徒や保護者へ情報提供し、全生徒の単位の履修・修得率を高める。特に年度当初の生徒の変化に留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 成績処理システムに、教科担当者が毎出欠データを入力し、担任・ホーム部・システム部が連携し、全生徒の個々の生徒の状況を日々把握し、生徒・保護者に事前連絡する。</li> </ul>
	生徒による授業評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ “生徒による授業評価”を年2回実施し、各教科で共有し研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 授業満足度90%[84%]以上</li> <li>★ “学校評価アンケート(生徒)”回収率70[63]%以上</li> </ul>
	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力スタンダード委員会で、教科会も活用し、学力向上に取り組む。</li> <li>○ 教科別職員室や教科会を活用し、専門性を高める議論を行い、授業内容、評価方法等について、生徒の実態を踏まえ共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学力スタンダード、週案(予定表・授業実数及び授業実数累計)、年間授業計画等を作成し、独自の学力調査を行う。</li> </ul>
	授業時間確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎時間の授業を大切に、授業への遅刻を減らす指導を行う。休講は長期休業中にその分を補填するなど、年間の授業時間確保を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 授業の開始・終了時刻を守る。生徒の授業への遅刻を減らす工夫をする。</li> <li>★ 生徒の授業の遅刻の扱いを再検討する。</li> </ul>
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科で、評価基準・評価規準を作成し、共有する。</li> <li>○ 科目ごとの評価基準・評価規準・評価状況を全教員で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 教科主任を中心に、教科会で、授業の進度調整を行い、評価基準・評価規準等を作成し、共有する。</li> </ul>

人間と社会	生徒が地域・社会で異年齢の方等と関わることの意義を踏まえ、共生社会・インクルーシブ教育推進をめざし、「人間と社会」の演習を実施し、キッカケづくりのボランティア体験活動等を拡大推進する。	★「人間と社会」は、人間と社会委員会、担任、相談室、進路指導部、道徳教育推進教師で推進する。 ★8月に宮城県訪問プログラムを実施する。
	司書教諭を中心に、業務委託による図書館運営を行う。	★ビブリア委員会で書評合戦参加者を支援する。 ★図書室や自習室の活用を推進する。 ★年間貸出6500[6494]冊(延3800[3748]名)
生活指導	成績等の個人情報の管理の徹底と作成の効率化を進める。	★図書開館日を工夫し、利用率向上を図る。 ★読書習慣を身に付けさせ、言語能力を高め、読書率を高める。 ★保有個人情報の紛失・誤廃棄を防ぐ。 ★答案等の管理を徹底する。 ★成績資料・調査書等は複数で点検し作成する。
	生徒の「自己管理能力」を高められるよう担任・教科担当・生活指導部等からの指導を徹底する。	★都立高校生活指導指針、特別指導の指導計画等に基づき、課題のある生徒に即応し、必要場合は特別指導や懲戒を行う。 ★いじめ防止委員会が年3回アンケートを行い対応の概要を生徒に周知する。 ★地域・保護者・関係機関と連携し、年2回及び随時、学校サポートチームを開催する。
特別活動・部活動	健全育成に向けた取り組みを推進し、特別な教育的支援が必要な場合に対応し、関係機関と連携するため、校内チーム支援体制を更に整える。	★担任・相談室・保健室・ホーム部・生活指導部が連携し、配慮すべき生徒への対応を行う。 ★相談室が窓口となり、スクールカウンセラー、ユースルーシャルワーカーと連携する。 ★暴力、器物損壊等には、懲戒退学を含め毅然と対応する。いじめの未然防止等に取り組む。
	山吹祭(定通合同文化祭)・球技大会等の行事、学校での発表、部活動、地域貢献・地域交流、「オリンピック・パラリンピック世界とまちプロジェクト」等とおし、仲間をつくり、地域と関わり、ルールやマナーを学ぶ機会を得る。体力や気力を高め、全国大会、都大会、定通芸術祭等で活躍する部活を応援する。また、日頃から、校内、学校周辺に生徒作品を展示し、温かい学校づくりを進める。	★全時限校内巡回、生活指導室常駐等で生徒に声をかけ、授業への出席を促す。 ★遅刻防止のため時間を意識して行動するなど、都立高校生活指導指針に基づき指導を行う。 ★SNSでの誹謗中傷を許さない心を育む。 ★生徒会が、SNS学校マナーに取り組む。
健康づくり	学校保健計画に基づき、生徒の健康づくりを推進する。校医等を迎え、学校保健員会を行う。	★情報交換会(3回)、校内研修会(4回)、事例検討会(3回)、担任交流会(3回)、教育相談交流会(3回)、教育相談委員会(毎月)、新入生全員面談を実施する。 ★自己探索学習、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループエンカウンターを推進する。 ★カウンセリング手法、相談記録活用を進める。
	心身の健康の意識啓発を行う。	★「人間と社会」等での体験活動先を更に開拓し、地域防災訓練等の地域行事に協力し、地域貢献、居場所づくりを促進する。 ★部活動加入を奨励し、加入率55[50]%を目指す。 ★「その怒り、6秒待つ」をスローガンに、体罰・生徒間暴力などの否定に取り組む。
進路指導	生徒に自己理解を促し、生徒の可能性を発見し、主体的に進路を選択するよう進路指導の充実を図る。生徒が受講しやすい補習・講習を実施する。大学入試共通テストに対応した取組を行う。	★健康診断受診率90[88]%以上。 ★相談室・担任・生活指導部等が、研究機関、警察、児童相談所、子ども家庭支援センター、病院等と随時連携する。 ★施設検討委員会等で、将来計画を立案する。 ★健康講話は、生徒アンケートに基づき集中講話を10月に実施する。
	卒業生の増加	★卒業生の増加を目指す。 ★卒業生を囲む会、進路講演会・相談会、大学・会社訪問等を計画的に実施する。 ★希望者を対象に校外模試を紹介する。 ★大学入試センター試験の受験を奨励する。 ★学力調査や校内学力測定テスト(スタディーサポート)を行う。 ★夏期講習等は、基本的に5月に募集を開始し、実施期間を調整し教科間の重なりをなくす。
募集・広報活動	本校主催学校説明会実施、中学校や都教委主催の合同説明会等参加で、本校の教育活動全般についての広報活動を推進する。	★卒業生 180[148]名以上 ★大学進学率 50[44]%以上 ★進路未定率(浪人除く)10[18]%以下 ★大学入試センター 110[97]名以上 ★高認で大学専門合格 20[19]名以上 ★講習補習55[47]講座、5月募集45[40] ★国公立大10[5]名(海外大含)、早慶上理大25[7]名、GMARCH大30[13]名、日東駒専大30[19]名以上合格
	中学校校訪問を実施し、ホームページを積極的に活用して情報発信を行う。	★中学校を300[266]校以上を訪問 ★本校を目指す生徒や在校生に情報伝達するため、ホームページを300[246]回更新する。 ★学校説明会参加者数 延1400[1357]名 ★くくり募集の維持等で、総定員を満たす生徒在籍を維持する。31年5月1日現在743名在籍(総定員720名)。
学校経営	企画調整会議を中心とした学校運営を行う。生徒への情報の伝え方を工夫する。	★クラス別レターケースを活用する。 ★イクボス宣言を行う。退勤時間把握を行う。 ★年間5日の学校閉庁日を周知し、緊急時の連絡には学校専用携帯電話を活用する。 ★奨学金等の周知を徹底する。
	安全管理を推進する。	★教職員は、笛付きネームタグを着用する。外来者・卒業生に、ネームタグ着用を促す。
経営企画室の経営	経営企画室長の下に、事務処理を効率的に実施する。自律経営推進予算では、特に一般需用費でセンター利用率・執行率を高める。	★一般需用費センター利用率50%以上 ★全予算執行率99%以上
	経営企画室が、学校経営に参画する。	★経営企画室が、30周年事業実行、SPH研究推進、学校保健、防災教育推進、施設検討、補助金審査、入試選考、修学旅行、ICT、図書館運営、給食運営等の委員会に参画する。